

きずな

第47号

平成26年7月15日

7月の予定

市民活動スキルアップ講座

「協働のまちづくり講座」

7月26日(土)

13:30~16:00

場所 中央公民館2階研修室

講師 黒川 有昌

(まちサポ代表理事)

受講料 100円

受講の方はお申し込み下さい。

第1回 すみだい すみつづけたいまちづくりフェスティバル



平成26年6月22日(日) 第1回すみたすみつづけたいまちづくりフェスティバルを、農村環境改善センター(いずみの里)にて行いました。このフェスティバルは、市民活動団体連絡協議会のお披露目もかねて行いました。まず、市民活動団体から日頃の活動の紹介を、それぞれのパネル展示の前でピーアールしました。これからの活動に参加して欲しいやこんな地道な活動をして

いますなど、まちサポの会員登録していない団体も数多く参加してくれました。午前の締めくくりは、NPO法人住み続けたいまちづくりの会による笑いヨガを参加者全員で行いました。お昼ご飯は、ここの郷土料理でもある祭り寿司と、九十九里福祉ねっこの「おからドーナツ」を購入していただきました。どちらとも好評でした。他に、野菜の販売や切り絵の展示販売、東北の着物からのリフォーム品の販売などありました。午後からは、区長会副会長の小林武さん、市子連の八角榮子さん、まちサポの黒川所長によるパネルディスカッション(コーディネーターは山武市の岩沢静氏)に引き続き、参加者全員による意見交換会を行いました。この意見交換会は、これまでも2回ほど行ってきていますので、そこに参加していた皆さんから活発な発言があり、



初めての方からも発展的な意見が出され、時間が足りないくらいに盛り上がりました。参加人数は少なかったのですが、内容の充実したフェスティバルになりました。時間の無い中で準備にご協力頂いた皆様皆様ありがとうございました。

意見交換会は、4回目も開かれることになりました。8月24日(日)13:30~15:30中央公民館講堂にてどなたでも参加出来ます。あなたの意見も是非聞かせて下さい。



海辺の花を愛でる会

平成26年6月28日(日)

雨の中実施

ハマボウフウで街おこしを!

あいにくの空模様の中、集まった方々と県有林周辺のゴミ拾いを行い、海岸のハマボウフウの花を見に行きました。30年前の白里海岸は、このハマボウフウはじめいろいろ海浜植物の花々であふれていました。今はハマヒルガオの花のみ、他はほとんど見かけません。特にハマボウフウは薬用になることから人々に乱獲され、それが原因で減少したとも言われています。街資源再興プロジェクトでは、海岸を市民みんなで楽しみながら蘇らせようと、ハマボウフウの里親制度を実施することにしました。今回はその第一回めの催し。みんなに海岸や海浜植物に興味を持ってもらおうと企画、食用に出荷している北海道からハマボウフウを取り寄せてんぷらの試食会も行いました。「白里海岸のハマボウフウは取ることは出来ませんが、里親になって自宅のハマボウフウを味わって下さい。」と里親を募集、楽しい会に成りました。里親には秋頃種を配布、自宅で摂れた種を海岸に戻してもらいます。興味のある方は、まちサポにお問い合わせ下さい。



郷土の歴史-19

残ったのは井戸と垣根
 十枝雄三と両総用水―その一

もう3年ほど前の話になるが、東金市の市会議員を長く務めてきた方より、聞いた言葉が今でも鮮明に思い浮ぶ。サンライズ九十九里で行われた宴席でのひとこまである。先生「井戸垣(いどがき)議員という言葉を知っていますか、と小生に問うのである。

恥ずかしくも全く聞いた事もない言葉なので「知りません」と答えざるを得なかった。すると大網白里の十枝雄三さんもその一人ですね、と教えてくれた。自分の生活や家族のことよりも地域社会の為、人の為に労力を惜しまず、また家財を投げ打つてまで政治活動に私財を投じた結果、自宅(屋敷)に残ったのは「井戸」と「垣根」だけになってしまった、ということの話である。

十枝氏は福岡村を経て、昭和15年2月に県会議員に当選し、同21年2月までの6年間つとめた。第二次世界大戦を経て十枝一家は、大きな母屋も失い長屋門に住んでいたと伝えられている。今日、このような政治家を探すのは難しい。



写真1 大正7年(1932)十枝家母屋

大網白里市郷土史研究会会長

古山 豊

お世話になっていきます。

毛糸・手芸・生地・化粧品
 ぷち・はんず
 大網白里市大網32-5
 0475-72-0394

安藤正義税理士事務所
 大網白里市仏島91
 0475-72-6188

トップマート大網店
 大網白里市大網84-4
 0475-70-2058

里山の自然に親しむ ひまわりフェスティバル 2014

7月26・27日 8月2・3日
10時～14時開催

歴史ある長屋門で、楽しいひとときを！
里山からの眺めも最高！



ひまわり畑前 旅本陣にて
(大網白里市金谷郷1638)

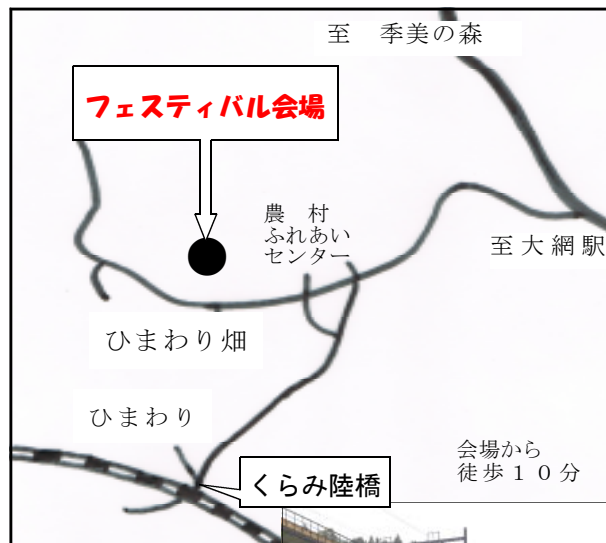


飲み物・甘味(くずきり、
くず餅)・ジェラート・と
ころてん・焼きそば・焼き
とうもろこし、陶芸の展示販売



ひまわりの切り花販売 等々

※近くにてブルーベリー積み体験
(有料)もお楽しみ頂けます。



主催 報徳の森保存の会

共催 大網白里まちづくりサポートセンター



第7回子ども平和コンサート開催

是非見に来て下さい。

8月6日(水) 8:00~14:15

大里ホールにて

参加無料

戦争体験語り部の会 メンバーから 広島原爆のお話し

千葉県ユニセフ協会の出前教室

子ども達の考える平和へのメッセージ

松本卓也さんと平和の歌を歌おう！

昼食の用意あります。
(有料)

主催 大網白里子育て支援ネットワーク協議会

大網病院と住民との交流会

テーマ

「当地域の救急の現状と今後の展望」

前号に続き、志村院長の講話からピックアップして。

「この地域の救急車の利用状況は、半数近くが軽症であり、その間に本当に救急車が必要な方が利用出来ないなど、救急車の利用方法の啓発活動が更に必要であると考えている。救急搬送の時間を比較すると、この地域での搬送時間は全県の平均に比べ30分未満が少なく、1時間前後の症例が多い傾向が顕著である。これは、管外搬送が多い事、医療圏が広いことに起因していると思われる。重症の患者がその後どのような経過をたどったかの分析が非常に重要であるが、当地域は管外搬送が多く、その後の調査が行われにくい状況にあり、分析が出来ていない。

二次救急の体制は当面は従来通りであり、しばらくは管外搬送もやむを得ず、管外を含めた広域の医療連携が引き続き必要である。既存の医療機関における医師の確保は依然として困難な状況にある。特に内科の常勤医は開業志向が強く、今は内科も専門的になっており内科は減少しているので、内科系の医師の確保が大変。このため、入院診療の担い手が不足するので、効率的な医療連携体制の再構築が望まれる。また、医療状況への理解を得るための地域住民への啓蒙活動も行う必要がある。なお、東千葉メディカルセンターの開院により救急医療の改善が期待されるが、同センターが十分機能するまでの間、各医療機関の救急診療機能に関する情報共有をしっかりと行う必要がある。これからの展望として、地域の医療体制の再編、行政の責任として東千葉メディカルセンターを核としてグローバルな見地から見直すこと、医療提供者がお互いに協力でき、納得するような施策を行うなどの対策を考えなければいけない。今後の5年間で非常に重要である。」以上が、1月に行われた交流会の話でした。今年がたち、東千葉メディカルセンターが開業しどうなったのか、今回の交流会のときにその先の話がお聞きできたらと思っています。

今回の交流会は秋頃予定です。

「熱中症声かけ予防運動」に
今年も参加しています。

★ひと涼みシェアを実施します。

★熱中症対策飲料冷やしてあります。

買い物途中に、まちサポで休んで下さい。



あみくん、さぽちゃんの
大網白里★あれこれ

大網白里市紹介のDVDが完成、配布が始まりました。「大網に住んで何年にも成るのに、知らないところがたくさんあって良かった」との声がまちサポにも届いています。基本的に、新しくこの市に転入された方に配布しているものですが、長年住んでいても、大網白里市のいいところを知らないで住んでいる方が大勢いることに驚きました。たくさんの方に大網白里のいいところを発信するのも、このコーナーの役割と感じました。皆さん、情報をお寄せ下さいね。